

もも管理特報 No. 1

平成29年3月3日
みな穂もも振興会
みな穂農業協同組合
新川農林振興センター

○3月～もも開花前の作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施 予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
休眠期せん定の完了	・ 第1回目防除前までに完了する	3/14頃まで		
ほ場の排水性見直し (排水路の手直し)				
防除の実施 (石灰硫黄合剤、 ホーマイコート)	・ かけムラのないよう散布 ・ 縮葉病多発園地は2回散布する	発芽前3/20頃まで		
苗木の定植	・ 苗木到着後速やかに実施	発芽前まで		
摘蕾	・ 樹勢に合わせ、70～80%程度摘蕾 ※ 花粉のない品種(川中島白桃等)は 上向きの蕾を軽く落とす程度とする	3月下旬～		

1 病害虫防除について

(1) 薬剤防除

発芽前の縮葉病の重要防除時期です。以下の薬液をかけムラのないよう散布してください。なお、第1回の薬剤散布までにせん定及び枝の片付けが終わるように、計画的に作業を進めてください。

回数	散布時期	対象 病害虫	薬剤名と希釈倍率	100% 当たり 薬剤量	散布量 % / 10a	実施 予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
1	3月20日頃 までに 散布 (発芽前)	縮葉病※1	石灰硫黄合剤 または (ホーマイコート※2) (展着剤 マイリノー)	7倍 50倍 20,000倍	14% 2,000g 5cc	300	

※1：縮葉病対策として、どちらかの剤を散布してください。

※2：石灰硫黄合剤による肌のかぶれや、器具の損傷が激しい場合はホーマイコートを利用してください。ただしホーマイコートは、胴枯病、黒星病、越冬病害虫に対しては登録がありません。

- 農薬散布の際は、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意しましょう！
- また、散布を事前にお知らせするなど、近隣住民の方等へも十分に配慮してください。

(2) コスカシバ対策

- ・ 4月中～下旬頃までに、樹齢の若い樹を対象にガッドサイドSを樹幹部（主幹）及び主枝（主幹から50cm程度）に塗布しましょう。
- ・ なお、成分ME Pを含む殺虫剤（ガットサイドS、トラサイドA乳剤、ラビキラー乳剤、ガットキラー乳剤、サッチューコートS）の樹幹処理は、収穫後～収穫までの総使用回数は1回以内です。

2 ほ場の排水性改善について

(1) 排水性の良否の判断

- ・ もも栽培では、すき床層などの難透水層がなく、降雨の翌日には水たまりが完全に消えるような排水性の良いほ場が適地です。
- ・ 新規に植栽する場合は、排水性の改善を行ったうえで植えつけましょう。
- ・ また、すでに栽培されているほ場でも、雨水が数日間たまってしまう等、排水性が低下している場合には、次の排水性の改善の取り組みましょう。

(2) 排水性の改善方法

改善方法	ほ場のタイプ	実施位置
明きよの設置	すべてのほ場	・ 額縁排水溝や列間の基幹排水溝等の明渠を設置し、スムーズに表面水を排水させる。
心土破碎	難透水層より下の土層が、砂れき層などの排水性が良好な場合	・ 重機等を用いて難透水層を破碎。掘上げた土は堆肥等と混ぜて埋め戻す。 ・ すでに栽培している園地において追加で実施する場合は、列間や外周部に施工し、碎石等で埋め戻す等、工夫する。 ・ <u>新植の場合は、定植予定位置の直下に施工する。</u>
暗きよの設置	難透水層より下の土層が、粘土層であるなど、地下透水が見込めない場合	・ <u>地下50～60cm程度にコルゲート管を設置する。</u> ・ すでに栽培している園地において追加で実施する場合は、列間や外周部に施工する等、設置位置を工夫する。 ・ <u>新植の場合は、定植予定位置の直下に設置する。</u>

3 植栽について

(1) 苗木の取扱い

- ・ 苗木を購入された方は、苗が届いたら早急に定植するか、定植または養成の準備が整うまで一旦苗木を仮植えしてください（右写真参照）。
- ・ 発送された苗木をそのままにしておくと、根が乾燥し枯死する場合があります。



仮植えの場合は、簡単な畝や植え穴を作り、根部に土をかぶせておく

(2) 苗木の養成

- ・ 新しく植え付けるほ場の排水性が悪い場合や、既存樹を抜根して翌年植え付ける場合などは、風当たりが少なく、排水の良い場所で1年間苗木を養成し、その間に定植予定のほ場・場所を準備を進めましょう。
- ・ 苗木は、20～30cm程度の高畝や、不織布ポットなどに植えて養成します（用土は定植する際に植え穴に入れる用土と同様の比率です）。
- ・ 植え付け後は適宜かん水し、苗木の乾燥を防ぎましょう。なお、不織布ポットの場合は、ポットの高さの半分～2/3程度まで土に埋め込みましょう。

(3) 苗木の定植について

ア 定植位置について

◆新植の場合

- ・ 植え付けにあたっては、列植図等を作成し、列間、株間を十分に確保できるようにしましょう。

◆改植の場合

- ・ 抜根した樹と同じ位置に植えると、連作障害が生じる恐れがあります。
- ・ 改植の際は、抜根した樹の根をできる限り取り除きましょう。
- ・ また、植栽位置は、できる限り従来株間に植えましょう。

イ 植え穴の準備

- ・ 植え穴は直径60cm以上、深さ20cm～30cm程度確保しましょう。
- ・ 植え穴には、完熟堆肥、ようりん、石灰質資材等を掘り上げた土と良く混和して埋め戻す。



植え穴に入れる用土は

- ・ 完熟堆肥 10kg
- ・ ようりん 0.2kg
- ・ 石灰質資材 0.2kg

程度を目安に、掘り上げた土と良く混和する。

ウ 苗木の準備

- ・ 白紋羽病対策のため、苗木の根部をトップジンM水和剤500倍希釈液に10分間浸漬します。
- ・ 右の写真のように、大きなポリバケツ等に薬剤液を作り、苗木を浸漬しましょう。



エ 定植（手順）



- ① 植え穴底面より 10cm 程度盛り土して根の枕を作る（深植えしすぎない）
- ② 太い根の先端を切り、切り口が下になるように植え穴に入れる。その他の根は、植え穴全体に広げて入れる。
- ③ 苗がまっすぐ立つように支えながら用土で穴を埋め戻す。

【ポイント】

- 苗木を揺さぶりながら埋め戻すと、根の隙間に用土が入り込みやすくなる
- 土を埋め戻した後、軽く踏み固めて土と根を密着させる

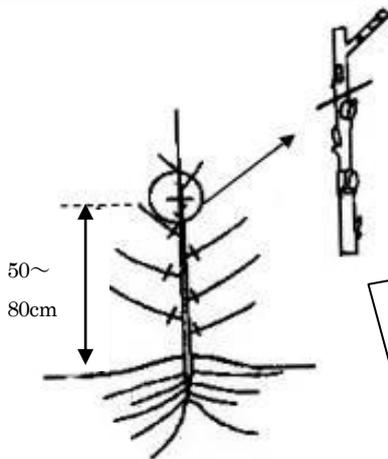


- ① 接ぎ木部が地上に出るようにする
- ② 接木テープを取り除く
- ③ 定植後、充分にかん水し、土と根を密着させる
- ④ 稲ワラ等で株元をマルチする（その後、随時かん水）
※苗木は乾燥に弱いので要注意

【ポイント】

- 植え付け後、植え穴部分が沈降するので、覆土が少し山盛りになるように植える

オ 支柱の設置と苗木先端の切り返し



- ① 苗から少し離して支柱を設置し、苗木を支柱に結束する
- ② 副梢は全て切除し、地上部の高さ 50cm~80cm 程度の葉芽で切り返す
- ③ 先端切り返した部分に保護殺菌剤（トップジン M ペースト、バッチレート等）を塗布する
- ④ 花芽は全て摘蕾する

【前年から養成している苗木の植え付けについて】

- トップジンM水和剤に根部を浸漬する作業は必要ない
- 不織布ポットは切り開いて（可能なら取り外して）、植え付ける